

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00534

研究課題名(和文)「世界文学」の日米露比較研究

研究課題名(英文)A Comparative study of World Literature among Japan, America and Russia

研究代表者

秋草 俊一郎 (AKIKUSA, Shun'ichiro)

日本大学・大学院総合社会情報研究科・准教授

研究者番号：70734896

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では世界文学全集の日米ソの比較対象研究をおこなった。具体的には、日米ソで世界文学という言葉がいかに用いられ、それが正典にいかん反映されたのかを世界文学全集の具体的調査によって明らかにした。結果として、それぞれの文化圏において、世界文学が出版や教育、イデオロギーの道具として用いられ、世界文学全集もまたその手段となったことが明らかになった。日本では世界文学は主に出版産業のスローガンとして大衆にうったえかけるキャッチフレーズになったのに対し、ソ連では多民族を束ねるイデオロギー的装置となった。アメリカでは世界文学は英語による学部教育を正当化するための方便として用いられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「世界文学」研究は、モレットやカサノヴァによる再発見以降、とりわけ米国を中心に研究が興隆している分野である。研究代表者はこれまでもその紹介にモノグラフの翻訳などを通じて務めてきたが、本研究の完成をもって、日本における世界文学史や世界文学受容や、欧米の研究の相対化ふくめ、世界文学研究の基盤が完成したと言える。具体的には、日本における世界文学という言葉の流通、内容の変容や、世界文学キャンソンの変化、ソ連におけるイデオロギー的な世界文学の創出などを剔抉した。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted as a comparative study of the World Literature Anthology in Japan, the U.S., and the Soviet Union. Specifically, we examined how the term "world literature" was used in Japan, the U.S., and the U.S.S.R., and how it was reflected in the canonical texts, through a specific survey of the anthologies of world literature (textbooks and anthologies). The results show that in each culture, world literature was used as a tool for publication, education, and ideology, and the anthologies of world literature also became a vehicle for these purposes. In Japan, world literature became a catchphrase that appealed to the masses, primarily as a slogan for the publishing industry, whereas in the Soviet Union it became an ideological device to unite a multi-ethnic population. In the U.S., world literature was used as a justification for undergraduate education in English.

研究分野：比較文学

キーワード：世界文学 比較文学 出版 翻訳研究 正典

1. 研究開始当初の背景

1990年代末より欧米で再発見された「世界文学」は、21世紀北米においてディシプリン化され、世界文学研究は比較文学研究にとってかわる概念として注目されている。その中で、本研究は日本における世界文学受容史を確認し、世界文学研究を立ち上げるうえで、「世界文学全集」に着目した。

2. 研究の目的

本研究の核心をなす問いは、「世界で「世界文学」はどう違うのか？」である。

「世界文学」という言葉は、万国共通の普遍性(正典)を意味する響きがありながら、時代・地域で指示する対象が大きく変わってきた。当然、言説の背景にある思想も様々だ。北米の大学でリベラルアーツ教育のために使われている教材としての「世界文学アンソロジー」を例にとっても、その内容はめまぐるしく変化している。本研究は、日米露という三つの地域・文化圏をとりあげ、そこでどのような「世界文学」が流通してきたのか、比較する。

3. 研究の方法

日米ソ(ロシア)における世界文学全集(あるいは類するアンソロジーやその試み)を調査し、その国別の割合や収録作品の傾向を分析する。また周延的な出版物や言説を分析し、いかなる思想・潮流のもとそれらが編まれていたのかを考察する。そのために各種図書館や出版社のアーカイブなどを調査する。

4. 研究成果(記載ない場合すべて研究代表者の単著)

実際に日米ソ(ロシア)の世界文学受容史を整理し、そのうえでそれぞれの「世界文学全集」(あるいはそれに類するアンソロジー)を精査した。まず日本においては、世界文学全集は大衆の生活の向上への期待を背景にし、西洋的=文明的な生活を象徴とする商品として出版社によって販売されてきた。その点については[論文]「『世界文学全集』消滅の訳 「3000万読者」は誰だったのか」(『中央公論』2022年8月号、168-173頁)で素描した。またアメリカでは、「世界文学」は大学教育におけるリベラルアーツ教育の一環として英訳による名作購読講座として吸収され、その目的のために種々の世界文学アンソロジーが教科書として編まれることになった。その理念や変遷については[論文]「拡張される自意識のための「世界」「世界文学」とアメリカ」(『群像』2021年2月号、282-290頁)や[講演]「世界文学とアメリカ」(2022年3月22日、研究会「逆走文学の系譜」)で発表した通りである。また史上初の社会主義国であるソ連においては、「世界文学」概念は、西洋に対して自政権の正統性を主張するプロパガンダとして当初は機能した。マキシム・ゴーリキーによる世界文学出版所の設立とその出版計画のカタログはその端的な例である。その後、反帝国主義、反植民地主義をかけた多民族国家ソヴィエト連邦が確固として成立するにあたって、世界文学概念は連邦内の諸民族をまとめあげるためのイデオロギーとして機能した。戦後の冷戦期にあっては、それは西側に対するソフトパワーとして機能しさえした。ソ連期にあまれた膨大な発行部数をほこった『世界文学叢書』はそのことを如実に物語っている。その点に関しては[学会発表]「ソヴィエトと「世界文学」 翻訳と民族語創作の奨励をめぐる」(日本比較文学会東北支部大会、2019年)で報告した通りである。またそのイデオロギーの確立やプロパガンダには、ソ連の日本研究者や、日本の文学者も利用された。その点に関しては[学会発表]“Cultural Diplomacy through Literature: Soviet Literature in 1960s Japan”(The Japan Council of Russian and East European Studies 2019)や[論文]「ソ連より愛をこめて 冷戦期日本における文化交流とソフトパワー」(『れにくさ』10巻、2020年、28-41頁)、[学会発表]“Nikolai Konrad and his Project of “World Literature” in the USSR”(Transcultural Encounters Between Russia and East Asia 2021)などで発表した。なお、ソ連崩壊後はロシアやロシア語の影響力は低下したが、ロシア語を中心とした文学流通の構造自体は一部温存されており、旧構成国の独裁者によって利用された。その一例として、[学会発表]「エヴゲーニー・チジョフ『下訳からの翻訳』とポストソヴィエト的翻訳ポリティクス」(世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会、2021年)や[論文]「独裁者は世界文学の夢を見るか エヴゲーニー・チジョフ『下訳からの翻訳』とポストソヴィエト的翻訳ポリティクス」(『言語文化研究』34巻2号、2022年12月、129-138頁)を発表した。

「世界文学」研究ということもあり、他分野の研究者とも一部共同して研究内容を討議、発表した。フランス文学、アメリカ文学の研究者とおこなった討議が[座談会]異孝之、小倉孝誠、秋草俊一郎、桑川麻里生「座談会「『世界文学』の現在」(99巻、2020年、148-168頁)である。またフランス文学や日本文学、ラテンアメリカ文学、東欧文学の専門家と共同して自ら「世界文学アンソロジー」を編むことによって、日本の教育や出版において実際に機能しうる文献を作成した([図書]秋草俊一郎・戸塚学・奥彩子・福田美雪・山辺弦編『世界文学アンソロジー いまからはじめる』三省堂、2019年)。

このような一連の世界文学研究の統合として、[図書]『「世界文学」はつくられる 1827-2020』(東京大学出版会、2020年)を刊行した。本書は種々の学会や新聞などの媒体で書評された。

また、世界文学研究の基礎的な文献として[図書]ローレンス・ヴェヌティ『翻訳のスクランダル 差異の倫理にむけて』(秋草俊一郎・柳田麻里訳、フィルムアート社、2022年)を共訳した。なおアメリカ文学の日本における受容の例として[論文]「日本人はナボコフをどう読んできたか 『ロリータ』を中心に」(『言語文化』36巻、2019年、3-22頁)を発表した。また現在の越境的な世界文学の例としてボスニア出身の英語作家アレクサンダル・ヘモンのエッセイ集を訳出刊行した([図書]アレクサンダル・ヘモン『私の人生の本』秋草俊一郎訳、松籟社、2021年)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 秋草俊一郎 | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 ソ連より愛をこめて 冷戦期日本における文化交流とソフトパワー | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 れにくさ | 6. 最初と最後の頁 28-41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 秋草俊一郎 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 拡張される自意識のための「世界」 「世界文学」とアメリカ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 群像 | 6. 最初と最後の頁 282-290 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 巽孝之、小倉孝誠、秋草俊一郎、桑川麻里生 | 4. 巻 99 |
| 2. 論文標題 座談会「「世界文学」の現在」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 三田文学 | 6. 最初と最後の頁 148-168 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 秋草俊一郎 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 日本人はナボコフをどう読んできたか 『ロリータ』を中心に | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 言語文化 | 6. 最初と最後の頁 3 - 22 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 秋草俊一郎 |
| 2. 発表標題 Nikolai Konrad and his Project of "World Literature" in the USSR |
| 3. 学会等名 Transcultural Encounters Between Russia and East Asia (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 秋草俊一郎 |
| 2. 発表標題 エヴゲーニー・チジョフ『下訳からの翻訳』と ポストソヴィエト的翻訳ポリティクス |
| 3. 学会等名 世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 秋草俊一郎 |
| 2. 発表標題 世界文学とアメリカ |
| 3. 学会等名 研究会「逆走文学の系譜」（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 秋草俊一郎 |
| 2. 発表標題 『「世界文学」はつくられる 1827-2020』（東京大学出版会、2020）を読む、語る。 |
| 3. 学会等名 東京大学現文発表会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 秋草俊一郎 |
| 2. 発表標題 Cultural Diplomacy through Literature: Soviet Literature in 1960s Japan |
| 3. 学会等名 The Japan Council of Russian and East European Studies |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 秋草俊一郎 |
| 2. 発表標題 ソヴィエトと「世界文学」 翻訳と民族語創作の奨励をめぐって |
| 3. 学会等名 日本比較文学会東北支部大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 アレクサンダル・ヘモン（秋草俊一郎（訳）） | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 松籟社 | 5. 総ページ数 240 |
| 3. 書名 私の人生の本（翻訳） | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 秋草俊一郎 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 404 |
| 3. 書名 「世界文学」はつくられる 1827-2020 | |

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 秋草俊一郎・戸塚学・奥彩子・福田美雪・山辺弦 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 三省堂 | 5. 総ページ数 361 |
| 3. 書名 世界文学アンソロジー いまからはじめる | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|